



全体的な感想

京都大学前にて記念撮影
 京都大学前にて記念撮影は1回だけ来たことがあったが、今回行ってみると前は行かなかった（ような気がする）場所を見ることができた。ただ、少し早めに出て行ってしまっただけでじっくりと見ることができなかったことが残念であった。八坂神社前のコンビニでは見事に風景に溶け込んでいるローソンであった。すごいと感じた。四条通は都市部だけあって、人通りも多く、かなりの活気があった。店も多く、全国チェーンの店から京都の伝統の店まで何でもあった。然し、その中には如何わしい店もあった。あれだけ大きな都市であると仕方のない候が少し曇っていたことが残念であったが、総合所見として今回の研修で京都という町の一端に触れることができたと思う。また、この研修で得たことを2年次の修学旅行に生かしたい。

京都大学 かつての面影一新か

かつての帝国大学のイメージはすっかり無くなり、かなり新しくなっていると正門をくぐって感じられた。しかし、正面には時計堂があり、京都大学が壮大であることを思わせる。私たちが行った時には授業のせいか、生徒は1人も正門前を歩いている人は見られなかった。時間があつたので私たちは100周年時計台記念館に入った。さすがに中は近年建てられたせいか、内装はきれいであった。中には歴史展示室というものがあつて、京都大学の帝国大学の時代からの歩みが、1つ1つ年代順に記されていた。中でも、学生運動が激しかった時の映像が残っていたので拝見すると、火炎瓶を大学に

投げ込む何人かの生徒がおり、多くの学生が学生運動に参加していた。幾人かが、立札をもって行進していたが何を書いているか分からなかった。戦前の帝国大学の物も幾つか残っていた。誰かの合格通知や必要な学費明細などであった。外に出ると、1枚のビラに目が留まった。ビラには「総長カレー」と称してある。そのカレーは総長自身が考案したものらしいのである。彼は料理研究家なのであろうか、それとも自分の舌に合うように作ったのかは分からない。ただ、このように、大学それぞれの個性を見ることも面白いのではないだろうか。

1230年の歴史 しみじみと感じて



清水寺にて

清水寺の最寄りのバス停から降りて徒歩7分。上り坂を登ると大きな赤い正門が見えた。門をくぐってチェックポイントを済ませた後、今度は金を払って奥へ進んだ。本殿の前であれこれ神様に頼んだ後、本殿横からいい風景を見たので写真を撮った。京都市内が一望でき、また風景の美しさに感動した。（写真は左）

京都の町 変化する町

今回、京都をまわるにあたって、清水寺と京都タワーという時代の差がある場所を巡った。この2つの場所を巡って京都は近代化しているのに古いものは古いものとして残そうとしていることが大いに感じられた。そして古いものは人間の進化の足跡として、新しいものは進化の最先端としてこの今の風景になっている。これと対比して東京という所は江戸時代の侍、と呼ばれていた人が住んでいた家はほとんどない。逆に言うとう京都市は人類の進化を感じさせやすい街であるかもしれない。日本が発展していく中で京都のような過去の町と今の町が一緒になっている町はしみじみとした趣深い感じと発展の中に取り残された感じ、という2つの感情がある。めまぐるしい変化の中に過去と現在の差を作るといふことには賛成も反対もしづらい。清水寺と京都タワー。この2つの建物は現代に住む私たちに大きな問いかけをしているように写真を見ていて思える。

天まで続く!? 京都タワー



京都タワーにて

時間通り京都タワーに登ることができた。京都の中の色々なものを見ることのできた。タクシーを追いかけている女性も発見した。